

学校教育目標



「三つの花」を咲かせる西部っ子

にこにこ花 楽しくあいさつができる子
 ほかほか花 「あったか言葉」をつかう子
 きらりん花 キラキラと自分らしく輝く子

春は感謝の季節

日増しに暖かくなり、木々の芽が膨らみ始め、早春の息吹を感じるこの頃です。

令和2年度もいよいよ終わろうとしています。3月19日には、66名の6年生が西部小学校を巣立っていきます。先日、6年生から手紙をもらいました。一人一人思いを込めて書いてくれた手紙の束を、じっくり読ませてもらいました。そこには、私への感謝の気持ちが表れていました。「おはようございますと元気に挨拶してくださいましてありがとうございます」「掃除をしているときに、いつもありがとうございますと声をかけてくださってうれしかったです」「読み聞かせをしてくださってありがとうございます」など。まるで語尾が『ありがとうございます』にならないといけなような書き方で、それぞれ感謝の気持ちを伝えてくれました。進級・進学にあたって、子供たちはこれまでお世話になった先生方への感謝の言葉を伝えることで自分自身の一年を振り返り、成長を実感しているようです。

それではご家庭では普段、『ありがとう』の言葉を言い合っていますか。照れくさい、言わなくても当たり前、と感謝の気持ちを伝え合っていないご家庭が多いと聞きます。日々の暮らしの中で、「ありがとう」と言い合える家族は素敵です。「にこにこ家族」の取組で、子供たちが「テーブル拭いたよ!」と報告したら、「あー、まだ汚れが残っているよ」と仕事の評価をしがちですが、「拭いてくれてありがとう」「進んでしてくれてありがとう」「毎日してくれてうれしいよ」と感謝の言葉を口に出してください。子供たちは「ありがとう」と感謝されることのうれしさを実感し、誰かに「ありがとう」と口に出して伝えることができる人に育っていくでしょう。

さて、今年度の終わりにあたり、学校からも感謝の気持ちをお伝えしなければなりません。寒い日も暑い日も、雨の日も大雪の日も、登下校を見守っていただいた交通指導員の皆様、こども110番の家、読書ボランティアの皆様、地域の先生として子供たちにご指導くださった方々、運動会やスキー教室などの学校行事にボランティアとして携わって頂いた方々等、本校の教育活動にご支援くださった多数の皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。引き続き西部っ子のよりよい成長のため、ご協力をお願い申し上げます。



(校長 上田 良美)

6年生の思いを受け継ごう週間



私は、目を合わせ気持ち良くあいさつする学校にしたいです。なぜなら、気持ち良くあいさつをすること、相手も自分もいい気持ちになると思うからです。そのために、毎日、友だちや家族とあいさつをしようと思います。6年生からは全校生のリーダーとしてがんばって来てありがとうございました。3年2組 石原 りお



6年生の委員長さんのメッセージを受けて、在校生がこれから頑張りたいことしっかりと考え、各学級で話し合いをしてメッセージにしました。自分のために、学校のためにと素晴らしい決意を発表しました。また、今年度は感染防止対策として、6年生と各学年がそれぞれ交流を図り、6年生との最後の思い出をつくりました。卒業を祝う会はできませんでしたが、よりよい児童会活動をしっかりと受け継ぐことができました。

卒業祝い、品授与式



6年生に卒業祝い品として、PTAから「マグカップ」、教育振興会から「クリアファイル」、西加積地区社会福祉協議会から「ノート」が、授与されました。ありがとうございました。

おめでとうございます！！

西部小学校読書ボランティア
おはなし☆キラリ

令和2年度 滑川市政功労 受賞

毎週、子供たちのためにいろいろな絵本を読んでくださり、ありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



令和2年度 アクションプランのまとめ

(1) 学習習慣定着部会

☆ 望ましい学習習慣を身に付けるために、家庭学習（学年×10分）に取り組む子供が80%以上を目指す。

取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習について取組方が分からない児童のために、実際の実践を基にした自主学習ノートの取組例を作成して配布した。 ・自主学習ノートには、「めあて」と「振り返り」、「家庭学習時間」を記すこととし、児童が家庭学習に主体的に取り組めるようにした。
最終評価 B	家庭学習の目標時間（学年×10分）を達成している全校児童の割合は83%であったことから、目標時間は概ね達成したと言える。
考 察	<p>自主学習ノートを活用することにより、宿題以外の家庭学習に取り組む児童が増えた。また、自主学習ノートのコピーを取組のよさの紹介とともに掲示したことにより、家庭学習の取組内容が広がった。</p> <p>全ての子供に望ましい学習習慣が十分に身に付いているとは言い難い。また、学習内容を見直すことなく提出するなど、内容のさらなる充実とともに、主体的に学習に取り組む態度の育成も課題である。</p>



掲示された自学ノートを参考にしている子供たち

(2) 「あったか言葉」定着部会

☆ 自分から挨拶できたり、相手を思いやった行動（手伝い）を行い、「心が温かくなると感じる」ことができたりする子供が全校児童の80%以上を目指す。

取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・あつまれ！にこにこ家族 ・自主的な清掃活動（高学年） ・委員会を通じて、草抜き等のボランティア活動の呼びかけや黙働の啓発。 ・子供の意識（挨拶やふるまい）を高めるための、教員の積極的な呼びかけ。 ・朝1番に、自分から家族に挨拶ができるように、にこにこ家族と合わせて意識的に取り組ませる。
最終評価 B	家庭にも協力を仰ぐことで、挨拶ができる子供が増えた。学校でも気持ちのよい挨拶ができるようになっている。また、手伝いを通じて「心が温かくなった」と感じる子供も増えた。目当て以外の手伝いにも積極的にチャレンジする子供が多くなり、冬休み期間では、家庭からの温かい声掛けもあり、手伝いを通じて「心が温かくなった」と感じた子供が大幅に増えた。継続して行うことで、一定の成果が上がった。
考 察	家族との関わりから、自然と手伝う習慣が身に付き、心が温かくなる経験をする子供が増えた。全校児童のハートの数の合計（毎日3個付けば8295個）も、年度当初は合計で5900個台が続いていたが、夏休みを皮切りに6000個を超えるようになった。11月、12月、冬休みは6200個以上となり、これは、全児童が毎日2個以上ハートが付いているという計算になる。また、個人による差も小さくなってきている。

	<p>これらのことから、活動を継続して行ったことにより、子供一人一人が手伝いによって心が温まる経験ができたと考えられる。保護者の声では、「自分から進んで手伝ってくれるようになった」「子供との会話が増えた」等、よい意見が多かった一方、低学年の保護者からは、「手伝いよりもまずは自分のことをできるようになってほしい」という声も聞かれた。今後は学年に応じた活動を考えていくことも必要である。</p> <p>挨拶では、まず家族に挨拶する習慣を身に付けることで、学校や地域でも挨拶できるようになったと考えられる。特に1年生と高学年の挨拶がよく、週6日以上、ほぼ毎日挨拶できている子供が90%を超えていた。1年生からよい結果が得られたことから、挨拶の習慣づくりは年度当初から家庭と共に取り組むことが大切だと感じた。</p> <p>これらのことから、家庭からの温かい声掛けは、子供を変える（動かす）一番の原動力になったと考えられる。</p>
--	---

(3) 心と体の健康づくり部会

- ・①「運動、体を動かす遊びが好きである」、②「進んで運動に取り組むことができた」の2項目で評価を行う。
- ・評価方法 ①チェックカード等による自己評価 75%以上
②チャレンジ 3015 立山編の達成率 75%以上
(1 学期 美女平 977m 2 学期 天狗平 2300m 3 学期 大汝山 3015m)

取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動に取り組むことができる場づくりとして、運動委員会を中心に、「西部っ子ジム」を設置した。また、3 学期には毎週金曜日に、握力と反復横跳びの記録会を行い、校内ランキングを挨拶広場に掲示した。 ・チャレンジ 3015 の推進を放送で呼びかけたり、帰りの会に色を塗る時間を設けたりして、チャレンジ 3015 を意識して運動遊びに取り組むことができるようにした。
最終評価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告同様、コロナウイルス対策を取りながら、運動委員会を中心に、運動遊びに取り組める場づくりを工夫した。 ・西部っ子ジムの種類を増やしたり、記録測定会を行ったりして利用率向上を目指した。高学年の取組がすすんでいることが分かっている。今後は、低学年の実態に合った場づくりを考えていきたい。 ・②の数値が大いに向上したが、①の結果があまり変化していない学年がある。
考 察	<p>コロナ禍で対策を取りながら、運動遊びの時間を確保することは難しかった。しかし、運動遊びに取り組むことができる場づくりを工夫することで、自分から運動に取り組む子供や、西部っ子ジムの記録会等を目標にして遊ぶ子供が多く見られた。学年ごとに実態を捉え、実態に見合った活動や場づくりを行うことが大切であると考えます。</p> <p>また、①の結果が芳しくない理由は、明確に限定できないが、体育科の授業の充実を図り、体育の楽しさや運動の楽しさを子供が実感する場を増やすことが大切であると考えます。今後は、体育科との連携を密にする必要がある。</p> <div style="text-align: right;">  <p>「西部っ子ジム」で運動する子供たち</p> </div>